

## 「一時預かり保育担い手確保の為に、アクティブシニア発掘」事業

(特非)淡路島ファミリーサポートセンターまあるく

1. 子育て世代のニーズである『一時預かり保育の担い手探し』が最終的な事業の目的ですが、当団体がH30年度より子育て世代包括支援センター事業を実施して5年が経つが、シニア世代に保育担い手の呼びかけをしても事業実施には至っていない。その理由として、シニアが1人で一時預かりを担う際のリスクと責任がハードルをあげ、気持ちはあってもなかなか一歩を踏み出せない状況です。子育て世代がマイノリティーとなる中、センターとしては子育て支援の充実を図りたいというジレンマに陥っています。

2. ①10月11日 10時30分～11時30分

参加者：シニア6名、ボランティア3名(内学生1名)、スタッフ2名、見学2名

②11月11日 10時30分～11時30分

参加者：シニア7名、ボランティア7名(内学生4名)、スタッフ2名、オンライン参加1名

③12月14日 10時30分～11時30分

参加者：シニア2名、ボランティア3名(内学生1名)、スタッフ3名

④1月12日 10時30分～11時30分

参加者：シニア5名、4名(内学生1名)、スタッフ：3名

⑤3月9日～11日のいずれか1日で決定予定。



### 3. 感想、問題点

成果 1回目より継続して参加してくれるシニアができ、子育て世代とのコミュニケーションを通して、子育てのリアルを知ってもらえる事が出来ていると思う。子育て世代も、シニアの顔見知りが出来て、担い手発掘の一歩を踏み出せたと思われる。

この事業では「スマホの悩み解決」と銘打って、若い世代がシニアの個別のスマホの悩みを一緒に解決していくのですが、仕事としてスマホの操作を説明しているわけでもなく、質問によっては数人で頭を悩ませることもあり、特にシニアに人気の「らくらくスマホ」の難解さは、教える側のボランティアの頭を悩ませましたが、諦めずにネットで検索したり、頑張って調べて教えてくれる若い世代の姿をみて、シニアの方々が感動し、より仲良くなれるきっかけとなりました。無料Wi-Fiモバイルを使って、参加者にWi-Fiのつなぎ方などを説明し、交流会後もシニア世代の節約につなげてもらえた。連携団体である社会福祉協議会の職員が教える側のボランティアとして参加してくれることにより、今後の具体的な「一時預かり保育」等のニーズに対応する際の共通の認識を共有することができた。

**事業の反省点** 計画では、もっと学生ボランティアを呼びたかったが、コロナ禍で授業との日程調整がつきにくかった。事業の期間中の、「スマホ交流会用のライングループ」を作成したが、イベント後のSNSツールを使ってのシニアからのQ&A等の画期的な活用には至っていない点。

この交流会に、関係する行政の窓口の担当者も参加してもらいたかったが、コロナ感染防止の観点からなのか、全5回の予定のうち、4回実施したが、一度も参加してもらえていない。

### 4. 今後の展望、成果の利用

参加したシニア世代、子育て世代とも、和気あいあいととても充実した時間をお過ごしただけだ。何度もご参加頂く事により、この事業の目指している“まずは顔見知り同士なる”という目的を小規模ながら果たしているのではないかとと思われる。今後は、行政の“子育てや健康福祉課”の担当者にも声掛けし、普段の業務とは違った関わりを持って貰い、この先の課題の解決に対して、スムーズに対処してもらうための『ネットワーク作り』に活用してもらいたいと考える。デジタル時代はこれからも続いていき、ますます複雑化していくと思われるため、これからもこのような機会を設け、多世代が暮らしやすい地域を目指す一助を担えたらと思います。